

外科学第一

1 構成員

	平成20年3月31日現在
教授	0人
准教授	1人
講師（うち病院籍）	2人（2人）
助教（うち病院籍）	5人（3人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	6人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	3人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	2人
合 計	19人

2 教員の異動状況

鈴木 一也（准教授）	（H12. 4. 1～H19. 3. 31助教；H19. 4. 1～現職）
小林 利彦（講師）	（H16. 7. 1～現職）
山下 克司（講師）	（H15. 1～現職）
餅田 良顯（助教）	（H12. 4. 1～H19. 3. 31助手；H19. 4. 1～現職）
和田 英俊（助教）	（H10. 7. 1～H19. 3. 31助手；H19. 4. 1～現職）
寺田 仁（助教）	（H13. 4. 1～H19. 3. 31助手；H19. 4. 1～現職）
鷺山 直己（助教）	（H13. 6. 1～H19. 3. 31助手；H19. 4. 1～現職）
小倉 廣之（助教）	（H18. 1. 1～H19. 3. 31助手；H19. 4. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成19年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	9編（2編）
そのインパクトファクターの合計	13.556
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	2編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	6編（6編）
そのインパクトファクターの合計	0

(4) 著書数 (うち邦文のもの)	0編 (0編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	8編 (6編)
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Shi E. Jiang X. Kazui T. Washiyama N. Yamashita K. Terada H. Bashar AHM.: Controlled low-pressure perfusion at the beginning of reperfusion attenuates neurologic injury after spinal cord ischemia. *Journal of Thoracic Cardiovascular Surgery*. 133(4):942-948, 2007
2. Shi E. Kazui T. Jiang X. Washiyama N. Yamashita K. Terada H. Bashar AHM.: Therapeutic benefit of intrathecal injection of marrow stromal cells on ischemia-injured spinal cord. *Annals of Thoracic Surgery*. 83(4):1484-1490, 2007
3. Suzuki T. kazui T. Yamamoto S. Washiyama N. Ohkura K. Ohishi K. Bashar AHM. Yamashita K. Terada H. Suzuki K. Akuzawa S. Fujie M.: Effect of prophylactically administered edaravone during antegrade cerebral perfusion in a canine model of old cerebral infarction, *J.Thorac.Cardiovasc.Surg.* 133:710-716, 2007
4. Konishi Y. Suzuki K. Wada H. Watanabe H. Ogura H. Sugamori Y. Bashar AHM. Yamashita K. Kobayashi T. Kazui T.: How do we manage the gastrectomy for gastric cancer after coronary artery bypass grafting using the right gastroepiploic artery? Report of two cases and a review of the literature, *World Journal of Surgical Oncology*. 5(54):1-7, 2007
5. Bashar AHM. Suzuki K. Kazui T. Yamaguchi M. Okada. Suzuki T. Washiyama N. Terada H. Yamashita K.: Changes in cerebrospinal fluid and blood lactate concentrations after stent-graft implantation at critical aortic segment a preliminary study. *Interact Cardiovasc Thorac Surg*. 7(2):262-266, 2008
8. 小林利彦, 山下克司, 和田英俊, 小倉廣之, 渡辺浩, 小西由樹子, 宮木祐一郎, 小泉圭, 数井暉久: 胸・腹部大動脈瘤と胆石・胆嚢炎合併症例の検討. *外科治療*, 96(6):1075-1079, 2007
7. 小林利彦, 山下克司, 和田英俊, 小倉廣之, 渡辺浩, 小西由樹子: 悪性腫瘍を伴った胸部・腹部大動脈瘤症例の検討. *臨床外科*, 62(12):1593-1597, 2007

インパクトファクターの小計 [8.73]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Okudela K. Suzuki M. Kageyama S. Bunai T. Nagura K. Igarashi H. Takamochi K. Suzuki K. Yamada T. Niwa H. Ohashi R. Ogawa H. Mori H. Kitamura H. Kaneko T. Tsuneyoshi T. Sugimura H.: PIK3CA mutation and amplification in human lung cancer. *Pathol Int*. 2007 Oct; 57(10): 664-671. Erratum in: *Pathol Int*. 2007 Nov; 57(11): 757.
2. Shinmura K. Kageyama S. Tao H. Bunai T. Suzuki M. Kamo T. Takamochi K. Suzuki K. Tanahashi M. Niwa H. Ogawa H. Sugimura H.: EML4-ALK fusion transcripts, but no NPM-, TPM3-, CLTC-, ATIC-, or TFG-ALK fusion transcripts, in non-small cell lung carcinomas. *Lung Cancer*. 2008 Jan 31; [Epub ahead of print]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 小林利彦, 渡辺浩, 木村通男: 病院情報システムにおける病名標準化の重要性. 経営情報学会2007年春季全国研究会発表大会予稿集, 32-35, 2007
2. 小林利彦: 病院の経営情報が診療プロセスに及ぼす影響. 経営情報学会2007年秋季全国研究会発表大会予稿集, 362-364, 2007

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 小林利彦: 大学病院における地域連携室の役割－病院経営に及ぼす影響－. 日本医療マネジメント学会雑誌, 8(2):335-339, 2007
2. 高持一矢, 鈴木一也: 縦隔の疾患, 縦隔胚細胞性腫瘍. 医学の歩み 別冊 呼吸器疾患, 医歯薬出版 Ver.5 416-419, 2007
3. 鈴木一也: まい・てくにつく 拡大胸腺摘出術におけるアプローチの工夫 (解説) 胸部外科 (0021-5252) 60巻12号 p.1061, 2007

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. 高本眞一, 石丸新, 上田裕一, 大北裕, 荻野均, 数井暉久, 加藤雅明, 栗林幸夫, 田林暁一, 中島豊, 松尾汎, 宮田哲郎, 吉田清, 青鹿佳和, 坪宏一, 阿部知伸, 石塚尚子, 大平篤志, 加地修一郎, 北村哲也, 齋木佳克, 柴田講, 下野高嗣, 中野越, 縄田寛, 新沼廣幸, 西上和宏, 林宏光, 師田哲郎, 吉岡邦浩, 鷺山直己, 安藤太三, 伊藤翼, 北村惣一郎, 末田泰二郎, 本田喬, 安田慶秀: 循環器病の診断と治療に関するガイドライン (2004-2005年度合同研究班報告) 大動脈瘤・大動脈解離診療ガイドライン (2006年改訂版) Journal of Cardiology 50(5): 547-577, 2007
2. 数井暉久, 鷺山直己, 鶴見智子: 器械出しの奥義 心臓外科編 腹部大動脈瘤(AAA) (解説) オペナーシング 22(11): 1146-1149, 2007
3. 数井暉久, 鷺山直己, 鶴見智子: 器械出しの奥義 心臓外科編 胸部大動脈瘤(TAA) (解説) オペナーシング 22(10): 1044-1047, 2007
4. 数井暉久, 鷺山直己: 循環器疾患 最新の治療 腹部大動脈瘤 南江堂 391-393, 2008

インパクトファクターの小計 [0.00]

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Yamashita K., Kazui T., Suzuki K., Terada H., Washiyama N., Bashar AHM.: Successful repair of ascending aortic pseudoaneurysm using autograft patch from fascia lata and saphenous

vein, Gen Thorac Cardiovasc Surg. 55(12):502-504, 2007

2. Takamochi K, Suzuki K, Bashar AH, Yajima K, Mochizuki T, Itaya T, Funai K.: Readministration of gefitinib in a responder after treatment discontinuation due to gefitinib-related interstitial lung disease: a case report. J Med Case Reports. 17;1:138, 2007
3. 寺田仁, 山下克司, 鷺山直己, 大倉一宏, 阿久澤聡: 最重症COPD合併症例に対する弓部全置換手術後に陽・陰圧体外式人工呼吸器(RTX)と非侵襲的陽圧換気(NPPV)が有効であった1例. 日本心臓血管外科学会雑誌37巻 2号112-115, 2008
4. 山下克司, 阿久澤聡, 寺田仁, 鷺山直己, 大倉一宏, 数井暉久: 肺動脈拡張を伴う成人肺動脈弁疾患に対する手術経験. 日本心臓血管外科学会雑誌 7巻 2号100-103, 2007
5. 大倉一宏, 菊池洋一, 椎久哉良, 光部啓治郎: 再弓部全置換術を施行した2症例. 日本心臓血管外科学会雑誌36巻 6号352-355, 2007
6. 磯野忠大, 小林利彦, 和田英俊, 小西由樹子, 宮木祐一郎, 小泉圭: 小網内Castleman病に対して腹腔鏡下手術を施行した1例. 日本臨床外科学会雑誌69(2):466-470, 2008
7. 北雄介, 野木村宏, 加藤真人, 長谷川浩嗣, 中野秀樹, 永山雅晴, 本城裕美子, 竹内亮輔, 白崎泰隆, 松永正紀, 鈴木一也, 数井暉久: Bacillus cereus膿胸に対して局所麻酔下胸腔鏡手術と胸腔洗浄が有効であった1例. 胸部外科(0021-5252)60巻 9号 865-867, 2007
8. 北雄介, 野木村宏, 加藤真人, 長谷川浩嗣, 中野秀樹, 永山雅晴, 鈴木一也, 数井暉久: 肺癌術後メチリン耐性黄色ブドウ球菌膿胸の1例. 胸部外科(0021-5252)60巻12号1114-1117, 2007

インパクトファクターの小計 [0.00]

4 特許等の出願状況

	平成19年度
特許取得数(出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

	平成19年度
(1) 文部科学省科学研究費	2件 (230万円)
(2) 厚生科学研究費	1件 (20万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	3件 (114万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	0件 (0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 高持一矢(代表者)若手研究(B)肺腺癌の発癌過程における結節性硬化症遺伝子の関与の解明110万円(継続)
4. Bashar AHM(代表者)特別研究員奨励費120万円(継続)

(2) 厚生科学研究費

1. 鷲山直己（分担者）循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業 弓部大動脈全置換術における超低体温療法と中等度低体温療法のランダム化比較試験 20万円（継続）

(5) 受託研究または共同研究

1. 鈴木一也 日本イーライリリー(株) 12万円
2. 鈴木一也 中外製薬(株) 72万円
3. 小倉廣之 ノバルティスファーマ(株) 30万円

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	9件
(3) 学会座長回数	0件	7件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	7件	

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

口頭発表

1. Mochizuki T, Okumura S, Yoshida J, Nakagawa K, Takamochi K, Suzuki K: Surgical Resection for Oral Tongue Cancer Pulmonary Metastases, a Good Choice? 12th The World Conference on Lung Cancer (IASLC). 2007
2. Takamochi K, Okudera K, Kageyama S, Bunai T, Niwa H, Ogawa H, Suzuki K, Sugimura H: The Role of Gene Mutations and Amplifications involved in Epidermal Growth Factor Receptor Pathways in Non-Small Cell Lung Cancer. 12th The World Conference on Lung Cancer (IASLC). 2007
3. Miyaki Y, Suzuki K, Koizumi K, Okada S, Kobayashi T, Suzuki K: Epigenetic inactivation of glucocorticoids-related gene in colon cancer. 2007. 9, 慶北－浜松合同医学シンポジウム
4. Takamochi K, Suzuki K, Okudera K, Mochizuki T, Itaya T, Sugimura H: The Role of Gene Mutations and Amplifications involved in Epidermal Growth Factor Receptor Pathways in Non-Small Cell Lung Cancer. 2007. 9, 慶北－浜松合同医学シンポジウム
5. Mochizuki T, Takamochi K, Suzuki K: Surgical Resection for Pulmonary Metastases of Oral Tongue Cancer-is it a good choice. 2007. 9, 慶北－浜松合同医学シンポジウム
6. Akuzawa S, Kazui T, Shi E, Yamashita K, Bashar AHM, Terada H, Washiyama N, Suzuki K.: Recombinant Human Interleuk-1 Receptor Antagonist-Anakinra Attenuates The Deterioration of Motor Function Induced By Spinal Cord Ischemia In Rabbits. 2007. 11. AHA (American Heart Association) Scientific Sessions 2007. USA

ポスター発表

1. Ogura H : CLINICAL TRIAL OF OPTICAL MAMMOGRAPHY. The 6th Biennial Meeting of the Asian Breast Cancer Society. 2007. 9. 22, 香港 (中国)

(2) 国内学会の開催・参加

3) シンポジウム発表

1. 小林利彦 : 医師からみた人をひきつける戦略. 日本看護管理学会 平成19年度第1回学術セミナー. 2007. 10. 20
2. 小林利彦 : 病院における医療情報コーディネータ. 第27回医療情報学連合大会 (第8回日本医療情報学会). 2007. 11
3. 鈴木卓康, 数井暉久, 山下克司, 寺田仁, 鷺山直己, 阿久澤聡 : 術後グラフト感染に対する治療法の工夫および治療成績. 第35回日本血管外科学会総会, 2007. 5
4. 船井和仁, 鈴木一也, 春藤恭昌, 高持一矢, 数井暉久 : 高齢者・ハイリスク患者への抗癌剤治療 当科での高齢者NSCLCに対する化学療法. 第47回日本肺癌学会総会, 2007.
5. 鈴木昌八, 坂口孝宣, 大石康介, 鈴木淳司, 福本和彦, 太田茂安, 稲葉圭介, 倉地清隆, 中村利夫, 鈴木一也, 中村達, 今野弘之 : 再発癌への挑戦 肺・肝転移, 手術でどこまで制御できるか 大腸癌肝転移切除後の残肝再発および肺転移に対する外科治療の意義. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007.
6. 鈴木一也, 板谷 徹, 望月孝裕, 高持一矢 : ループ状胸骨吊り上げバーを用いた鏡視下胸腺摘出術. 第7回呼吸器胸腔鏡手術研究会, 2007.
7. 高持一矢, 奥寺康司, 影山信二, 武内智康, 丹羽宏, 小川博, 鈴木一也, 相村春彦 : 非小細胞肺癌におけるEGFRシグナル伝達系関連遺伝子の変異および増幅の役割. 第11回がん分子標的治療研究会, 2007.
8. 船井和仁, 鈴木一也, 高持一矢, 阿久澤聡, 鈴木卓康, 鷺山直己, 寺田仁, 山下克司, 数井暉久 : 大血管合併切除を施行した肺癌, 縦隔悪性腫瘍症例の検討. 第50回関西胸部外科学会学術集会, 2007. 6
9. 小倉廣之 : Genome-wide analysis of demethylation alterations in breast tissues. 第107回日本外科学会総会, 2007. 4

4) 座長をした学会名

鈴木一也 : 第11回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会 2007. 9 東京

鈴木一也 : 第48回日本肺癌学会総会 2007. 11 名古屋

鈴木一也 : 第69回日本呼吸器外科学会 2007. 12 横浜

小林利彦 : 第62回日本消化器外科学会 2007. 7 東京

山下克司 : 第50回関西胸部外科学会学術集会 2007. 6. 21 大阪

和田英俊 : 第106回日本消化器病学会東海支部例会 2007. 06. 19 浜松

和田英俊 : 第5回東海ヘルニアフォーラム 2008. 02. 16 名古屋

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

The Asian Society for Cardiovascular Surgery; Council member

鈴木一也：日本外科学会 代議員

鈴木一也：日本胸部外科学会 評議員

鈴木一也：日本臨床外科学会 評議員

鈴木一也：日本呼吸器外科学会 評議員

鈴木一也：日本呼吸器学会 評議員

鈴木一也：日本内視鏡外科学会 評議員

鈴木一也：日本気胸・嚢胞性肺疾患学会 理事 評議員

鈴木一也：日本肺癌学会 評議員

鈴木一也：関西胸部外科学会 評議員

小林利彦：日本消化器外科学会 評議員

小林利彦：日本胃癌学会 評議員

山下克司：関西胸部外科学会 評議員

山下克司：日本循環器学会東海支部評議員

和田英俊：日本内視鏡外科学会 評議員

和田英俊：日本ヘルニア学会 評議員

小倉廣之：日本乳癌学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成19年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成19年度
産学共同研究	1件

1. 小林利彦：リハビリテーション・介護支援のためのパワーアシスト技術研究会（豊橋技術科大学，浜松医科大学，医療機器会社ほか）

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 宮木祐一郎，小泉圭：「DNAメチル化異常と発癌」
 - ・プロモーター領域のメチル化状態とRNAiを用いた機能解析による新規癌抑制遺伝子の検出

- ・メチル化特異的制限酵素を用いたマイクロアレイの開発と、臨床検体を用いた癌易罹患者性の検討

15 新聞、雑誌等による報道

1. 小林利彦：浜松医科大学病院で「静岡版電子カルテ」の運用開始、「患者が持ち運べる」を前提にした新たなシステム。薬事日報記事 2007. 10. 17